

# 取扱説明書

34型ワイド液晶ディスプレイ  
LCD-GCWQ341XDシリーズ

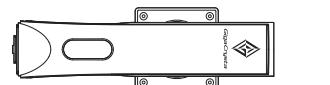
HDMI<sup>®</sup>  
HIGH DEFINITION INTERFACE

## 添付品を確認する

□ 台座



□ ネック式（ネック、取り付けネジ4本）

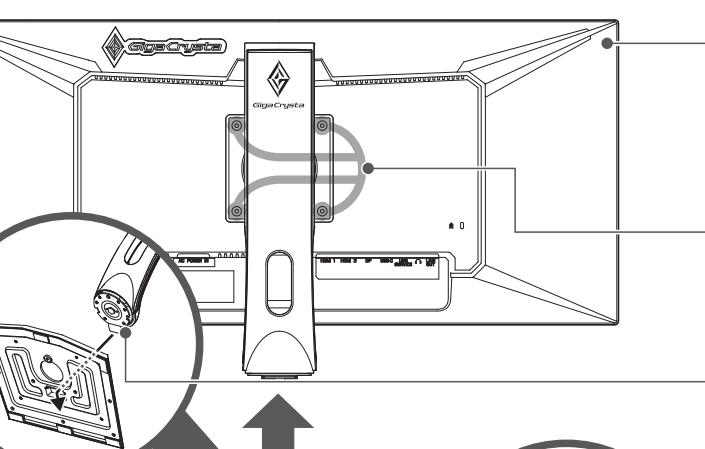


□ リモコン・動作確認用電池



※USBケーブルを別途用意する場合は、USB 3.1 Gen 2のものをご用意ください。  
(添付のUSBケーブルは当社が動作確認をしており、問題なくお使いいただけます)

## 台座を取り付ける



梱包材（発泡スチロール）の上に置いたまま、袋を軽く開ける  
※液晶パネル面を手で押さえることを防ぐためです。

ネックを添付のネジで取り付ける

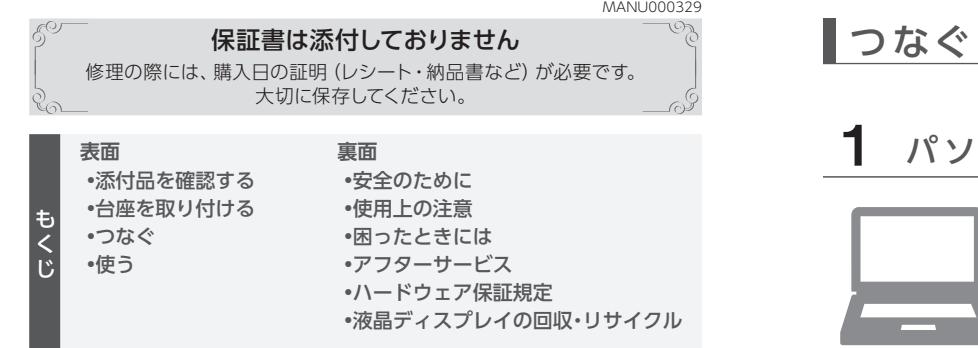
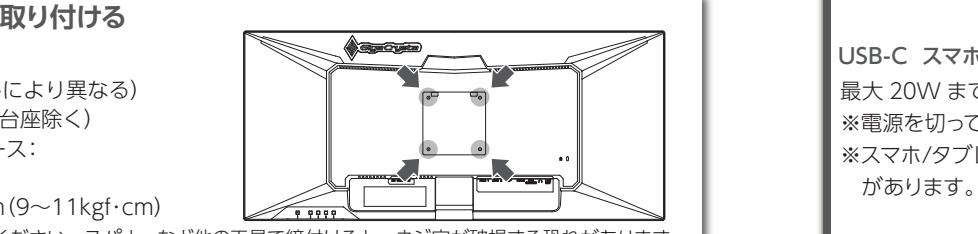
ネックの金具を台座の穴に引っ掛ける

台座のネジの金具を起こし、時計回りに回して台座を固定する  
※固定した後は、ネジの金具を倒す

両手でネックを持ち、本製品を机の上などに設置する

取り付け時・調節時の注意  
液晶パネル（表示面）が故障または破損する原因になります。  
●本製品を床などに落とさない  
●液晶パネルを傷つけない  
●液晶パネルを手で押さえない

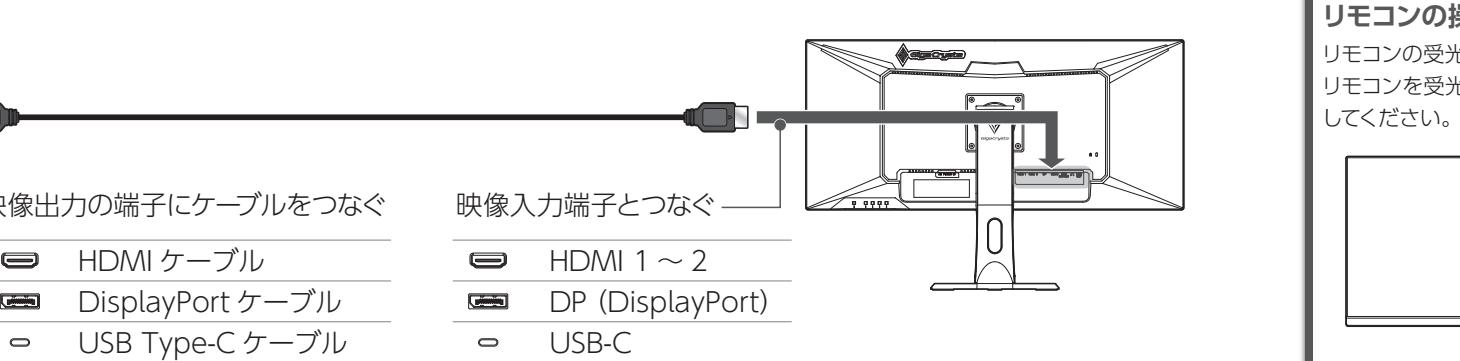
モニターアーム（VESA）に取り付ける  
●固定用ネジ：M4×10mm  
(モニターアームの金具の厚みにより異なる)  
●本製品質量：約7.2kg(ネック・台座除く)  
●VESAマウントインターフェース：  
100mm×100mm  
●締付けトルク：90~110N·cm (9~11kgf·cm)  
※ドライバーを使ってネジを締付けてください。スパナなどの工具で締付けると、ネジ穴が破損する恐れがあります。



MANU000329

## つなぐ

### 1 パソコンや映像機器とつなぐ

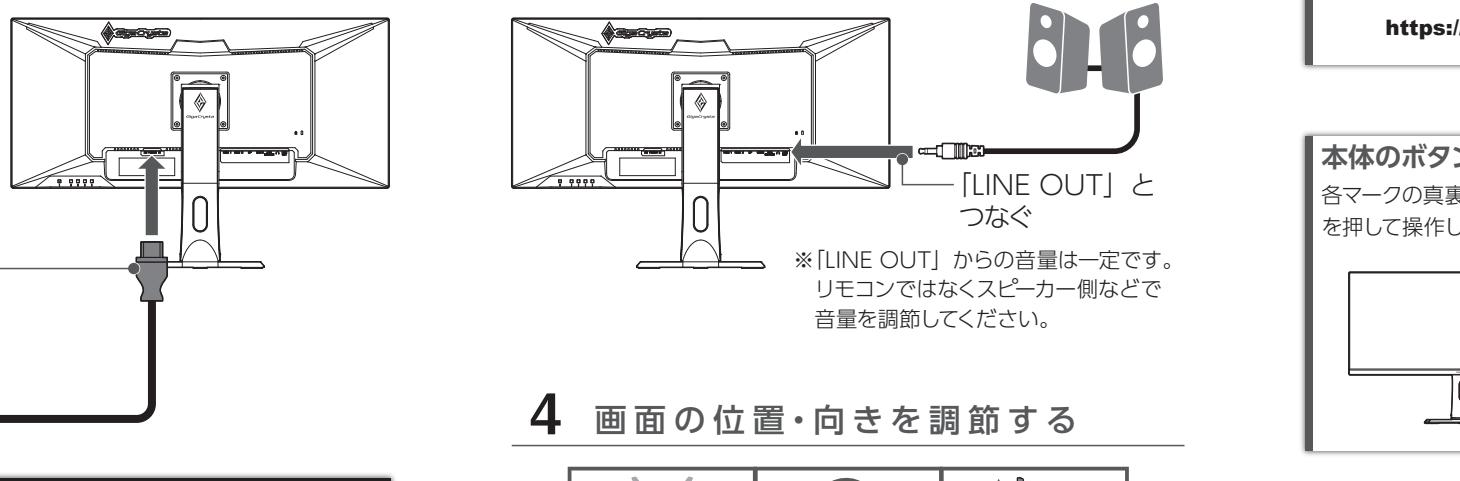


#### 解像度

本製品は、最大解像度 3440x1440、最大周波数 75Hz に対応しています。



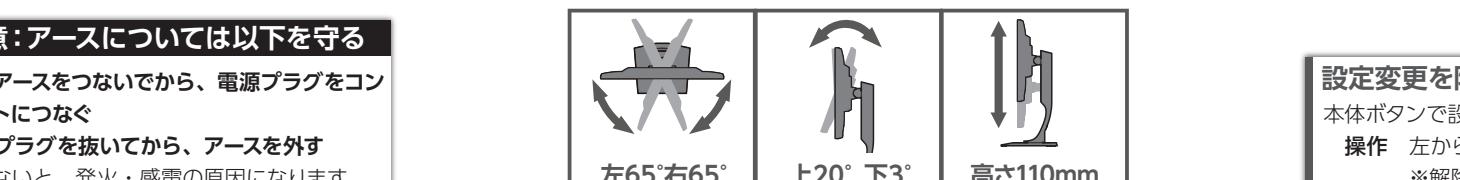
### 2 電源コンセントとつなぐ



### 3 必要なら、外部スピーカーとつなぐ

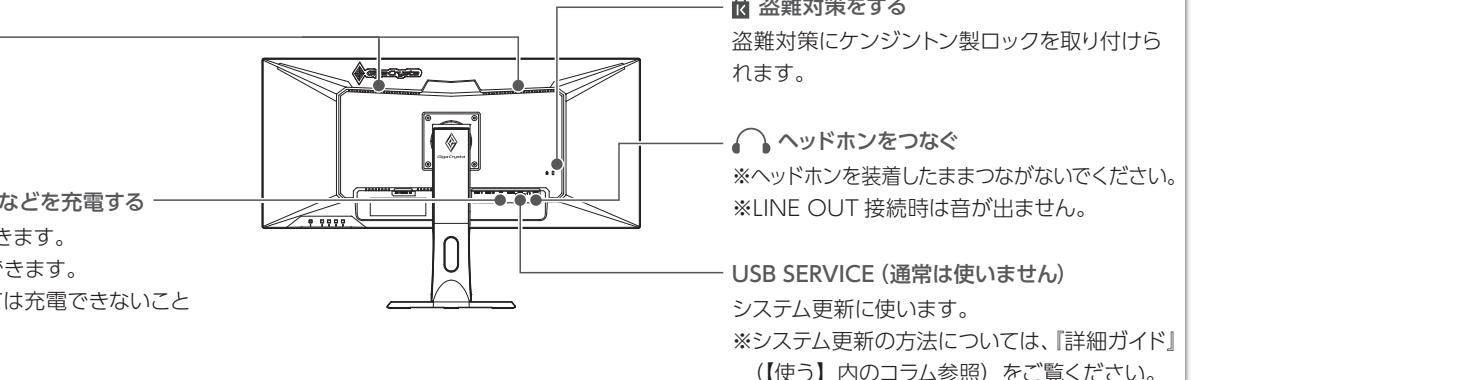


### 4 画面の位置・向きを調節する



※手や指をはさまないように注意してください。  
※ケーブルは、はさんだり、引っ張ったりしないように、余裕を持って取り回してください。

#### その他の端子などについて



## 使う

本製品は、添付のリモコンを使って操作します。

#### リモコンの操作範囲

リモコンの受光部は GigaCrysta ロゴの近くにあります。  
リモコンを受光部に向けて 5m 以内かつ上下左右に 30° 以内で操作してください。

#### 電源ランプについて

青点灯	電源入
オレンジ点灯	節電状態
オレンジ点滅	過電流 <sup>*1</sup>
消灯 <sup>*2</sup>	電源切

#### 表示する映像を切り換える（入力切換）

※子画面の映像は、「子画面」枠の「入力切換」で切り替えます。

#### 設定については「詳細ガイド」をご覧ください



#### 設定については「詳細ガイド」をご覧ください



#### 表示の遅延を低減する（スルーモード）

一部映像処理を無効化することで、表示の遅延を減らすことができます。動きの速いゲームで操作と表示のズレを減らします。

#### 本体のボタンで操作する場合

各マークの真裏より少し上にあるボタンを押して操作します。

#### 残像感を低減する（オーバーホーリング）

動きの速いシーンの残像感を低減し、動きの激しい映像やゲームでもクリッキリした映像を楽しむことができます。

ただ映像によっては、かえって画面の色ずれ・色変化などが出てしまうことがあります。

#### 子画面を使う（子画面）

通常の画面（親画面）とは別で、他の入力の映像を「子画面」として表示できます。

#### 子画面を表示する（入／切）

子画面の状態を切り替えます。  
PIP→PbP→切→PIP→…

#### 子画面の映像を切り換える（入力切換）

※子画面機能以下の組み合わせは同時に表示できません。

- HDMI 1 と HDMI 2
- DP と USB-C

#### 子画面のサイズを変更する（サイズ）

位置 D → 位置 A → 位置 C → 位置 B → 位置 D

#### 子画面の位置を変更する（位置）

位置 D → 位置 A → 位置 C → 位置 B → 位置 D

#### 親画面と子画面を入れ替える（親子切換）

システム更新に使用します。  
※システム更新の方法については、「[使う] 内のコラム参照」をご覧ください。

#### 音声を切り換える（音声選択）

音声を出す画面を切り替えます。（親画面⇒子画面）

#### PiPとPbP

##### PiP

親画面内に子画面を表示します。

##### PbP

親画面と子画面を並べて表示します。

#### HDMI機器をリモコンで操作する

HDMI ケーブルでつないだ機器を、本製品のリモコンで操作することができます（CEC 機能）。

## コンテンツに応じた音声効果に切り換える（サウンドモード）

## 映像をより鮮やかに映し出す（エンハンストカラー）

映像にメリハリを付け、鮮やかに表現します。

## 詳細な設定をする（メニュー）

メインメニューを開いて、様々な設定をします。

## イルミネーションの光り方を設定する

メインメニューの「イルミネーション」から変更してください。

## 表示の遅延を低減する（スルーモード）

細かな設定をしなくても画面モードを切り換えるだけで、見やすく美しい映像を表示することができます。

## 暗いシーンを見やすくする（ナイトクリアビジョン）

映像の暗い部分を明るく見やすく表示します。

## 画面の縦横比率を調整する（アスペクト比）

UWQHD (3440x1440) の解像度に応じていない機器の映像を映す場合、このボタンで表示を調整します。

## 子画面を使う（子画面）

通常の画面（親画面）とは別で、他の入力の映像を「子画面」として表示できます。

## 子画面を表示する（入／切）

子画面の状態を切り替えます。

PIP→PbP→切→PIP→…

## 子画面の映像を切り換える（入力切換）

※子画面機能以下の組み合わせは同時に表示できません。

- HDMI 1 と HDMI 2

- DP と USB-C

## 子画面のサイズを変更する（サイズ）

位置 D → 位置 A → 位置 C → 位置 B → 位置 D

## 子画面の位置を変更する（位置）

位置 D → 位置 A → 位置 C → 位置 B → 位置 D

## 親画面と子画面を入れ替える（親子切換）

システム更新に使用します。

※システム更新の方法については、「[使う] 内のコラム参照」をご覧ください。

## 音声を切り換える（音声選択）

音声を出す画面を切り替えます。（親画面⇒子画面）

## PiPとPbP

### PiP

親画面内に子画面を表示します。

### PbP

親画面と子画面を並べて表示します。

## HDMI機器をリモコンで操作する

HDMI ケーブルでつないだ機器を、本製品のリモコンで操作することができます（CEC 機能）。

## 安全のために

お使いになる方への危害、事故への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

### ▼警告および注意表示

△警告 この表示の注意事項を守らないと、死  
亡または重傷を負うことがあります。

△注意 けがをしたり周辺の物品に損害を  
与えたりすることがあります。

△警告 本製品を修理・分解・改造しない  
発火や感電、破裂、けが、動作不良の原因になります。

△注意 雷が鳴り出したら、本製品や電源コードには触れない  
感電の原因になります。

△注意 本製品をめらしたり、水気の多い場所で使わない  
水や洗剤などが本製品にかかると、隙間から浸込み、発火・感電の原因になります。

△注意 電池について  
電池を乳幼児の手の届くところに置かない  
誤って飲み込むと、窒息や胃などの障害の原因になります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

△注意 電池の液が漏れたときは直ちに火気より離す  
漏洩した電解液に引火し、破裂、発火する原因になります。

△注意 添付の電源コードは、他の機器につながない  
発火や感電の原因になります。添付の電源コードは、本製品専用です。

△注意 電源コードは、添付品または指定品のもの以外を使わない  
電源コードから発煙したり、発火の原因になります。

△注意 ジュウタン、スピンドル、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・  
保湿性の高いものの近くで使わない  
発火の原因になります。

△注意 ゆるいコンセントにつながない  
電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでゆるみがある場合にはつながないでください。発熱して発火の原因になります。

△注意 テープルタップを使用する時は定格容量内で使用する、たこ足配線はしない  
テープルタップの定格容量（1500Wなどの記載）を超えて使用すると、テープルタップが過熱し、発火の原因になります。

△注意 故障や異常のまま、つながない  
本製品に故障や異常がある場合は、必ずつないでいる機器から取り外してください。そのまま使うと、発火・感電・故障の原因になります。

△注意 コンセントまわりは定期的に掃除する  
長期間電源プラグを差し込んだままのコンセントでは、つもったホコリが湿気などの影響を受けて、発火の原因になります。（トラッキング現象）トラッキング現象防止のため、定期的に電源プラグを抜き、乾いた布で電源プラグをふいてください。

△注意 本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、必ず先にパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントから電源コードを抜く  
電源コードを抜かずにおこなうと、感電の原因になります。

△注意 梱包用のビニール袋や取り外した小さな部品（ネジなど）を乳幼児の手の届くところに置かない  
ビニール袋をかぶったり、小さな部品を誤って飲み込んだりすると、窒息の原因になります。

△注意 熱器具のそばに配線しない  
電源コードが被覆が破れ、発火や感電、けがの原因になります。

△注意 本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない  
発火の原因になります。

△注意 AC100V（50/60Hz）以外のコンセントにつながない  
発熱、発火の原因になります。

△注意 燐が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントから電源プラグを抜く  
そのまま使うと発火・感電の原因になります。

▼絵記号の意味  
△ 禁止  
! 指示を守る

△警告

△注意 本製品を修理・分解・改造しない  
発火や感電、破裂、けが、動作不良の原因になります。

△注意 雷が鳴り出したら、本製品や電源コードには触れない  
感電の原因になります。

△注意 本製品をめらしたり、水気の多い場所で使わない  
水や洗剤などが本製品にかかると、隙間から浸込み、発火・感電の原因になります。

△注意 電池について  
電池を乳幼児の手の届くところに置かない  
誤って飲み込むと、窒息や胃などの障害の原因になります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

△注意 電池の液が漏れたときは直ちに火気より離す  
漏洩した電解液に引火し、破裂、発火する原因になります。

△注意 添付の電源コードは、他の機器につながない  
発火や感電の原因になります。添付の電源コードは、本製品専用です。

△注意 電源コードは、添付品または指定品のもの以外を使わない  
電源コードから発煙したり、発火の原因になります。

△注意 ジュウタン、スピンドル、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・  
保湿性の高いものの近くで使わない  
発火の原因になります。

△注意 ゆるいコンセントにつながない  
電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでゆるみがある場合にはつながないでください。発熱して発火の原因になります。

△注意 テープルタップを使用する時は定格容量内で使用する、たこ足配線はしない  
テープルタップの定格容量（1500Wなどの記載）を超えて使用すると、テープルタップが過熱し、発火の原因になります。

△注意 故障や異常のまま、つながない  
本製品に故障や異常がある場合は、必ずつないでいる機器から取り外してください。そのまま使うと、発火・感電・故障の原因になります。

△注意 コンセントまわりは定期的に掃除する  
長期間電源プラグを差し込んだままのコンセントでは、つもったホコリが湿気などの影響を受けて、発火の原因になります。（トラッキング現象）トラッキング現象防止のため、定期的に電源プラグを抜き、乾いた布で電源プラグをふいてください。

△注意 本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、必ず先にパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントから電源コードを抜く  
電源コードを抜かずにおこなうと、感電の原因になります。

△注意 梱包用のビニール袋や取り外した小さな部品（ネジなど）を乳幼児の手の届くところに置かない  
ビニール袋をかぶったり、小さな部品を誤って飲み込んだりすると、窒息の原因になります。

△注意 熱器具のそばに配線しない  
電源コードが被覆が破れ、発火や感電、けがの原因になります。

△注意 本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない  
発火の原因になります。

△注意 AC100V（50/60Hz）以外のコンセントにつながない  
発熱、発火の原因になります。

△注意 燐が出たり、変な臭いや音がいたら、すぐにコンセントから電源プラグを抜く  
そのまま使うと発火・感電の原因になります。

△注意 燐が出たり、変な臭いや音がいたら、すぐにコンセントから電源プラグを抜く  
そのまま使うと発火・感電の原因になります。

△注意 警告

△注意 注意

△注意 禁止

△注意 指示を守る

△注意 警告